

#### 河川・流域(9) (3-A-9-1~3-A-10-2)

本セッションでは6題の発表が行われ、そのうち自動車交通由来の道路環境からのPAHsの流出・汚染に関するものが4題で、その内容は自動車交通による路上堆積粉塵由来のPAHsは雨天時、道路排水を媒体として水環境に負荷される。その寄与を定量的に明らかにするため Hopane 類を用いて解析を行ったもの(3-A-9-1)、手賀沼流域における晴天時の河川由来のPAHs 負荷の流入・流出特性を調査し、懸濁物質の影響を明らかにしたもの(3-A-9-3)、高速道路交通に由来する微量有害物質について降雨時流出の実態調査を実施し、降雨強度と流出負荷量の関係と年間流出量を明らかにしたもの(3-A-9-4)、広島湾域への流出負荷量の評価のため、発生源から湾底泥沈積物までの動態を調査し、各発生源の大粒粉塵と小粒粉塵別のPAHsの解析を行ったもの(3-A-10-1)の発表があった。

自動車交通由来の晴天時流出や降雨時流出の挙動は非常に複雑であり、その流出先の水域への影響も含め、今後さらに詳細な検討が必要と思われた。

また、都市河川のLASの動態に関する発表が1題あり、その内容は下水道整備が進んだ都市域の生活系に由来するLASの出現濃度レベルや挙動について調査し、全体としてLAS濃度は低いが、一部では高濃度を示し面源や漏水による負荷を示唆した報告であった(3-A-9-2)。

さらに、雨天時の道路路面排水処理に関する発表が1題あり、その内容は上向流ろ過装置を用い、ろ材の材質選定、粒径別のSS捕捉量分布率、及び損失水頭とSS除去率の関係等を検討した報告であった。なお、この装置は実際の路面排水をこれまでに半年以上処理しているとのことであった(3-A-10-2)。

このセッションは広い会場にも恵まれて多くの聴衆があり、活発な質疑応答が交わされた。

(宮城県・保環セ 斎藤 善則)